

皆様へ



復旧事業を強力に推進し、地域の活性化を生み出す

南相馬市長 桜井 勝延

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
新しい年の初めにあたり、市民の皆様のご多幸をお祈り申し上げますとともに、昨年中に賜りました、市民の皆様からの市政に対するご支援とご協力に心から感謝を申し上げます。

さて、本市では、一昨年の3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故によって多くの市民が避難を余儀なくされ、不自由な生活を強いられている中で二度目の新年を迎えることとなりました。

私はこの困難な状況を打破し、一日でも早く、一人でも多くの市民が、この南相馬市で震災前と同じように安心して生活できるよう、昨年を「復興元年」と位置付け、復旧・復興に向け全力で取り組み参りました。

しかしながら、復興への道のりは遠く、特に旧警戒区域内の復旧・復興は緒に着いたばかりであり、除染をはじめ、災害がれきの処理やインフラの本格復旧、医療・福祉の充実など、課題は山積しております。

そのため、今年は復旧・復興への取組みをさらに強め、全ての市民が南相馬市に戻り、市民一人ひとりが将来に向けて夢と希望を抱き、安心して

暮らし続けることができる南相馬市を取り戻すため、復旧・復興に向けての主要施策をまとめた「南相馬市復興計画」の確実な実行を図って参ります。特に市民の帰還に不可欠なインフラの整備をはじめ、生活圏の除染や災害がれきの処理などの復旧事業を強力に推進するとともに、再生可能エネルギー関連企業などの積極的な企業誘致と被災された方の住宅の確保に努め、産業面からも地域の活力を生み出す考えです。

また、介護や医療施設の再開支援と子供の遊び場確保など、次代を担う子供たちが戻り、安心して暮らせる魅力ある環境づくりを積極的に進め、南相馬市復興計画のスローガンである「心ひとつに 世界に誇る 南相馬の再興を」の実現を目指し、市民の皆さんと一緒に全力で取り組み参ります。

南相馬市を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、様々な困難が待ち受けているものと思いますが、本年も市民の先頭に立ち職員一丸となって打開すべく努めて参りますので、市民の皆様のお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶いたします。

市民の



説明責任を果し、 積極的な対話を

南相馬市議会議員 横山 元栄

平成25年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
私は、昨年11月30日に開催された12月定例会において、第5代南相馬市議会議員に就任いたしました。復興元年という南相馬市の将来を左右する大切なこの時期に議会のまとめ役の要職に就くことになり、責任の重さに身の引き締まる思いであります。

さて、東日本大震災と原発事故によって不自由な生活を強いられる中、昨年12月7日にも大きな揺れに襲われ、3・11の悪夢を思い起こされた方も多かったのではないのでしょうか。市内の公共施設には津波や福島第一原子力発電所を心配して多くの市民の皆さんが避難されました。市民の安全を守るべき防潮堤の改修などの防災対策が進んでないことから心配をしましたが、幸いにも被害がなかったことに安堵したところであります。

本市は、「心ひとつに、世界に誇る、南相馬市の再興を」をスローガンに復興計画を策定し、東日本大震災からの復旧・復興に取り組んでおります。しかし、未曾有の被害であったことや国の中間貯蔵施設の設定が遅々として進まないなどの影響から復興に向けての事業の進捗状況が見えない現状にあります。こうした中、平成24年度一般会計予

算は、8回に及ぶ補正の結果、1,000億円を超える規模となつていっているものの、その執行率は20%に満たない状況にあります。議会としても議決した事業について、スピード感を持って対応するよう執行部に求めているところであります。また、議会改革の一環として自らの説明責任を果し、これまで以上に民意を反映した市政運営とするため、市民の皆さんとの積極的な対話に努めてまいりたいと考えております。

今年の干支の巳(蛇)は、古来から「神の使い」とされ、「豊穡の神」として崇められてきました。また、蛇は脱皮することから「復活と再生」を連想させ、まさに、再興を図る南相馬市の姿といえます。

今、市民の皆さんの願いは、安全で安心な生活環境を取り戻し、避難されている皆さんが一日も早く帰還し、被災前の平穏でにぎやかな南相馬市に戻ることだと思います。そのために市議会も鋭意努力してまいりたいと考えておりますので、市民の皆さんにもより一層のご支援、ご協力をお願いするものであります。

これから益々寒さに向かう折、くれぐれも健康にご留意され、ご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。